

第15回日立財団科学技術セミナー

「みんなの再生医療の実現に向けて～ 歯や毛髪再生のイノベーション」を開催

2019年10月26日(土)、日本工業倶楽部において、第15回日立財団科学技術セミナーを開催しました。今回は、理化学研究所 生命機能科学研究センター 器官誘導研究チーム チームリーダーの辻 孝氏を講師に迎え、「次世代再生医療」をテーマに講演いただきました。



らの流れになってくると思います。そこで、私たちは、医療イノベーションの中の再生医療分野で、命にかかわる医療だけではなく、健康に、豊かに生きていくための医療、QoL(Quality of Life)医療を提案したいと思っています」と研究への思いを語られました。

再生医療の最前線は「いのちの再生医療」から「みんなの再生医療」へ、より多くの人に身近な医療へ広がってきているとのこと、再生医療技術を通して未来の健康長寿社会への理解を深めることができる講演でした。



理化学研究所
生命機能科学研究センター
器官誘導研究チーム チームリーダー
辻 孝氏

辻先生は、再生医療分野をリードする研究者のおひとりで、器官(臓器)の「タネ」を作り出す技術「器官原基法」を開発し、この技術により、世界に先駆けて歯や毛髪、唾液腺、涙腺の器官再生を実証されています。講演では「超高齢化社会、医療費の増大といった課題を抱えるなか、いかに健康を維持するか、いかに病気になる前に手を打つか、というのが、医療のこれか

倉田奨励金贈呈式と研究報告会開催のご案内

研究助成「倉田奨励金」贈呈式の開催に合わせ、今年度から過去の受領者による研究報告会を併催することになりました。今回の報告会では「エネルギー・環境」「都市・交通」「健康・医療」の3つの分野を代表して、3名の方に発表いただきます。ご興味のある方は事務局までお問合せください。後日ご案内をお送りいたします。

開催日：2020年3月3日(火)	《研究報告》
場所：経団連会館	エネルギー・環境分野：茨城大学 准教授 鶴野 将年氏
時間：研究報告会：14時30分～	都市・交通分野：九州大学大学院 教授 谷本 潤氏
2019年度(第51回)贈呈式：15時30分～	健康・医療分野：大阪大学大学院 准教授 近藤 誠氏

※2019年度の倉田奨励金受領者は2020年2月上旬に日立財団ウェブサイトにて発表いたします。
お問合せ：倉田奨励金事務局 電話：03-5221-6677 / E-mail: kurata@hdq.hitachi.co.jp

編集後記

新年あけましておめでとうございます。編集スタッフ一同、心から新年のお祝いを申し上げます。
今号は、10月に開催した第15回日立財団科学技術セミナー「みんなの再生医療の実現に向けて～歯や毛髪再生のイノベーション」の様子と、11月に開催した、多文化共生社会の構築シンポジウム「日本社会における多文化共生社会実現の壁～心のグローバル化～」の報告をさせていただきます。どちらも多くの皆様にご参加いただき、学びのある内容となりました。「人づくり」からは、水戸で開催した作文コンクール表彰式の様子と、4校の実施報告を掲載した日立みらいイノベータープログラムを紹介しています。
本年も引き続き、皆様に日立財団の活動に興味をもっていただけるように、より多くの報告をできればと思います。今年もよろしくお祈り申し上げます。

公益財団法人 日立財団

〒100-8220 千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階
TEL 03-5221-6675 FAX 03-5221-6680
E-mail: hitachizaidan@hdq.hitachi.co.jp

●日立財団のウェブサイト

<https://www.hitachi-zaidan.org>

発行日：2020年1月10日発行
発行責任者：床波 忠明 / 編集責任者：山口 淳嗣 / 印刷：(株)クリエイターズギルド

NewsLetter

Vol.35 / 2020.1

日立財団では、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください！

多文化共生社会の構築

多文化共生社会の構築シンポジウム

日本社会における多文化共生社会実現の壁～心のグローバル化～

2019年11月4日(月・祝)、アキバプラザ(千代田区)において、多文化共生社会の構築シンポジウム「日本社会における多文化共生社会実現の壁～心のグローバル化～」を開催しました。

日本で暮らす外国人は、近年増加の一途をたどり、その数は、266万人に達し、総人口に占める割合は初めて2%を超えました。日本は今後着実に進む人口減少により、人手不足は顕在化しており、外国人就労者への期待は高まっています。本シンポジウムでは、日本における多文化共生社会の現状と、日本人のメンタリティからみた「心の壁」について追及し、心のグローバル化を図るために何をすべきかを考えました。



日立財団理事長
石塚達郎による挨拶



基調講演は、女優・タレントとしてテレビやラジオなどで活躍されているイラン出身のサヘル・ローズ氏を迎え、「夢をつなぐ 心をつなぐ」と題し講演いただきました。8歳の時に養母と来日し、住むところや食べるものもなく、数日間を公園で過ごしたことや、その状況を見かねた、給食の「おばちゃん」の家に居候させてもらったこと、校長先生に日本語を教えてもらった

ことなどを話すと、会場からはすすり泣きの声も上がっていました。最後に、サヘル氏から、「国籍や肌の色、イメージだけで判断しないでください。ニュースだけが全てではありません。一人ひとりの意識から変えて欲しいです」と共生社会を築くためのメッセージがありました。

後半は、共同通信社 社会部 副部長の山脇絵里子氏をモデレーターにお迎えし、3名のパネリストにお話しいただいたあと、パネルディスカッションを行いました。



日本国際交流センター執行理事 毛受敏浩氏は、高齢化が進む地域では、外国人の方たちに、一時的な労働者としてではなく、定着していただき、日本で子どもを育て地域社会を担ってもらわないと高齢者の割合は増え続け、2060年には65歳以上の高齢者が総人口の4割になると指摘、武蔵大学社会学部メディア社会学科 アンジェロ・イシ教授は、観光客など短期滞在外国人に対する日本人の「おもてなし」は、世界一ですが、定住・永住する外国人を、日本社会の一員として、「おもてなし」をする気持ちを育むことが次の課題ではないかと述べられました。名古屋大学情報学研究所 唐沢穰教授は、「目立つことは人々

憶に残りやすく、『外国人労働者』という言葉が多用されると、何かの問題が頻繁に起きているように感じて外国人を警戒してしまう」といった心理学的側面について言及されました。

最後に、モデレーターの山脇氏から、「何か一つでも、ヒントを持ちかえていただき、ご家族や職場、学校などで、様々なルーツを持つ人たちと幸せに共生するために何ができるのかを話し合ってください。一人ひとりが意識をすることで共生社会の関心が高まり心のグローバル化に繋がる。」とまとめの言葉がありました。

講演録は、2020年1月中旬公開予定です。



共同通信社社会部
副部長
山脇 絵里子氏



国際交流センター
執行理事
毛受 敏浩氏



武蔵大学 社会学部
メディア社会学科 教授
アンジェロ・イシ氏



名古屋大学
情報学研究所 教授
唐沢 穰氏



シンポジウムのお知らせ(茨城県日立市)

開催時期：2020年1月26日(日)13時30分～16時00分
 タイトル：おもてなしの心を超えて
 会場：日立シビックセンター 音楽ホール(茨城県日立市)
 対象：一般の方500名(入場無料)
 後援：日立市、日立市教育委員会、公益財団法人茨城県国際交流協会

基調講演：「夢をつなぐ心をつなぐ」サヘル・ローズ氏(女優)
 講演：●「心の壁、言葉の壁、法の壁を考える」アンジェロ・イシ氏(武蔵大学社会学部メディア社会学科教授)
 ●「心の壁と格差社会」唐沢 穰氏(名古屋大学情報学研究所教授)
 ●「外国人の生活支援について」鈴木 哲也氏(公益財団法人茨城県国際交流協会理事長)

人づくり

▼「作文コンクール」の表彰式を開催



「日立財団 小平記念賞」受賞の皆さん



「日立財団 奨励賞」受賞の皆さん

2019年12月5日(木)水戸市内において、「チャレンジ いばらき県民運動」と共催で開催している「作文コンクール」の表彰式を開催しました。

今年度は、「私の住む町」をテーマに、豊かさや暮らしやすさ、伝統文化のすばらしさに加え、科学技術を使った町づくりや、理想の町について、茨城県内の小学生、中学生を対象に募集したところ、12,435点の応募がありました。

その中から「知事賞」をはじめ当財団の「日立財団 小平記念賞」と「日立財団 奨励賞」を含む45の作品が入賞しました。

「日立財団 小平記念賞」と「日立財団 奨励賞」の入賞作品は、日立財団のホームページに掲載をいたしますので、ご覧ください。

●詳しくは日立財団ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.hitachi-zaidan.org/works/human/development/contest.html>

人づくり

日立みらいイノベータープログラム

出張授業3回目、児童が講師に向けて課題解決策を発表

日立みらいイノベータープログラムは、約4か月をかけて小学5年生の「問題発見・課題解決力」の育成をめざす、プロジェクト型探求学習プログラムです。児童は、小学6年時に自分たちが考えた学校の課題解決策を実行することを目標に、学校教員による授業や、講師として出張授業を行う日立グループ社員のサポートを受けながら、活動に取り組みます。

2019年度は4校10クラスを対象に本プログラムを実施しており、今回の報告は3回目の出張授業です(全4回)。各学校の児童は、グループに分かれ準備した課題解決策のプレゼンテーションを実施し、講師の数々のアドバイスを受けていました。11～12月には、一段と磨きをかけた最終発表会に臨みます。

2019年10月1日(火)

茨城県 日立市立河原子小学校



授業冒頭で講師より「前回の授業から1か月が経ちますが、どのような発表を聞けるのか今日はとても楽しみにしてきました!」とメッセージがありました。



「綺麗な学校」を目指すグループの発表。講師は「すでに綺麗なと思う」と答えた人にも回答理由を聞けば、より具体的な策が考えられるのでは?とアドバイス。

2019年11月12日(火)

東京都 立川市立上砂川小学校



「各教室でのルールが守られていない」ことを課題にしたグループ。ルールが生徒に周知されていないため、守れていないのでは?と仮説を立て、アンケートを取りました。



発表へのコメントを、付箋に書き込む児童の様子。クラスメイトの解決策に対して意見を出し合い、相互評価を行うことで多様な視点を取り込み、次回への改善に繋がります。

2019年11月8日(金)

千葉県 柏市立松葉第一小学校



「言葉遣いが良い学校/悪い学校」について寸劇を取り入れ発表したグループ。児童の可愛らしさと、童謡をベースにした秀逸な替え歌に、大人たちからは思わず笑い声が。



講師にサインを求める児童。その後、別の児童からは手描きイラストのプレゼントがありました。数回の出張授業を経て、講師と児童の心の距離もグッと近づいたようです。

2019年11月20日(水)

埼玉県 戸田市立新曾北小学校



「異学年交流が少ない」という課題に対し全学年に調査を行ったグループ。「情報を視覚化することで、より説得力のある提案ができますね」と講師から講評がありました。



発表後、新たな疑問が生まれた児童から質問タイムのリクエストがありました。「先生、教えてください!」の声に応え、講師のアドバイスも次第に熱を帯びていきました。

今回の中間発表を終え、児童からは「講師からの指摘で、みんなを納得させるようなデータが足りていないと分かった。これからまた全校にアンケート調査をして、最終発表では講師を驚かせるような発表をしたい。」「下級生に“この年の5年生はすごい!”と思われるよう、次回のためにさっそく詳しく調査を始めたい」といった声が聞かれ、各学校で、最終発表に向けたモチベーションが高まる様子が伺えました。